令和８年 10 月 30 日
教育課程企画特別部会
資　料　１　－　３

令和８年 10 月 30 日

質の高い幼児教育の実現に向けて

一般社団法人 全日本私立幼稚園連合会
会　長　　尾上　正史

幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。

ノーベル経済学賞を受賞したヘックマン教授は、長期追跡調査の結果「幼児期への投資は、その後のどの教育段階への投資よりも高い社会的収益率をもたらす。」と指摘しています。

予想をはるかに超えて少子化が進む我が国において、乳幼児期の教育が国の将来を左右すると言っても決して過言ではありません。今こそ、設置者や施設類型に関わらず全ての乳幼児に対して質の高い幼児教育を提供し、乳幼児期から小・中・高等学校まで一貫した教育観を貫くことが大変重要であると考えております。

小・中・高等学校の教育の土台となる幼児教育を担う教育施設において、何を大切にして教育を行うのか、どういった資質・能力を育てていくのかという観点から、これまでの実践や研究の成果を踏まえ、今後の期待・展望について意見いたします。

記

Ⅰ．環境を通して行う教育　～「遊び」は「学び」～

乳幼児期の子どもにとって、生活の多くが自発的な活動の「遊び」であることが重要です。

乳幼児期の子どもは、自らの興味・関心に基づいて遊ぶことで、多様な動きを経験し、身近な人やものとの関わりをもち、成長に必要な体験を積み重ねていきます。

まさに「遊び」は「学び」であり、乳幼児期の子どもが自らの興味・関心に基づいて遊ぶためには「環境を通して行う教育」が求められています。

教科等による系統的な指導ではなく、遊びを通しての総合的な指導によって乳幼児期の資質・能力の育成を図ることが重要であり、小学校の準備教育・先取り教育であってはならないと考えております。また、学問体系に区分しての指導や具体的に到達すべき目標を示すという方向性にならないことも肝要であると考えております。

「遊び」は「学び」であるという幼児教育の基本原則が今後の要領等においても揺らぐことなく継承されることを強く期待します。

２．体験的学び　～園庭の果たす役割～

質の高い幼児教育を実現する上で不可欠なものは、遊びの中で行われる直接的・具体的で多様な体験を保障する豊かな環境です。

その環境の一つである園庭は、戸外での運動遊びの場としてだけでなく、樹木や草花、生き物との出会い、その土地の気候を肌で感じるなど、自然との触れ合いの場でもあります。さらには、身体の様々な動きを導き出す遊具があり、砂場遊び、水遊びなど、多様な体験を積む環境があり、主体性・協同性・思考力・粘り強さなどの育成に大きく寄与するところです。

昨今の社会状況では屋外で子供たちが安心して活動できる場所や時間が減少しており、現代社会における園庭の役割はますます高まっていると言えます。

次期要領等においては、園庭の環境を通して、直接的・具体的で多様な体験を保障し質の高い教育活動が展開されることをより一層重視する方向をご検討いただき、各園の教育活動の質の向上を後押しいただけるようお願いします。

３．幼児教育の質の向上のために　～評価システムＥＣＥＱ®～

質の高い幼児教育を展開するためには、よりよい教育環境を作り出していく幼稚園教諭・保育教諭等の役割が極めて重要です。

教諭らは、高度専門職として、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努める義務を負っており、学び続ける存在であることが社会からも期待されています。このため、私立幼稚園等における研修と研究を担っている一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構では、各園が「公開保育を活用した幼児教育の質向上システム（ＥＣＥＱ®）」を通じて、幼稚園教諭・保育教諭等の資質能力の向上とそれに伴う幼児教育の質の向上および評価に取り組んでおります。

こうした取組が一層活性化し、全国の各園において幼児教育の質の向上が図られるよう、要領等の改訂とともに、幼稚園教諭・保育教諭等の処遇改善、養成の充実、人材確保支援の拡充、主体的かつ計画的な研修受講に向けた制度設計や支援、質の高い教育活動を展開している園への支援など、引き続き、制度の充実や支援策の拡充を図っていただきますようお願いします。

４．小学校との円滑な接続　～地域格差の是正～

子どもの発達や成長に必要な環境を切れ目なく構築するためには、幼児教育と小学校教育との円滑な接続が重要です。

合同会議・研修の開催、保育・授業の相互参観、架け橋期のカリキュラムの作成など、互いの教育への共通理解への取り組みが各地で為されて来てはおりますが、全国的にはその状況に大きな地域差があります。

国・都道府県・市町村が一体となった推進体制を整備し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続に地域による差が生じないよう取り組んでいただくことをお願いします。

５．乳幼児期にふさわしい体験への理解　～ＩＣＴとの関わり～

本連合会における全国保護者アンケートでは、園に期待することとして「友だち作りや集団ルールを学ぶこと」、「スキンシップや会話等を通じ、子どもと笑顔で接してほしい」など、友だちや多様な人たちとの直接的な関わりが示されています。家庭や地域において兄弟姉妹や近隣の幼児と関わる機会が減少している昨今の状況を踏まえると幼児教育施設における集団生活での実体験が非常に重要になってきています。

一方で、現代社会のあらゆる場面を席巻しているＩＣＴによって人と人との直接的な関わりや実体験の機会が減少していることを危惧しております。

この度の議論により、ＩＣＴについては「具体的な体験の充実を図る道具として活用」と記載されたことを、幼児教育施設においても家庭においても認識し、ＩＣＴとの関わりが乳幼児の成長に有害とならないよう乳幼児の発達段階を充分に踏まえて適切に配慮されますことを期待し、次期要領等においては、幼児教育施設での集団生活を通して主体性や社会的態度、様々な人間関係について体験的および直接的な学びを重ねていくことを、引き続き、重視していただきますようお願いします。

最後に…

幼児教育は、子ども一人一人の健やかな成長と豊かな学びを支えるとともに、我が国の未来を築く最も重要な社会基盤です。幼児教育の基本や重要性および乳幼児期の子どもの姿（成長の段階など）について、幼児教育関係者のみならず、保護者や小学校関係者、さらには国民一般に広く理解されるよう、より一層強く発信いただくとともに、次期要領等の改訂が全ての子どもたちに質の高い幼児教育を保障し、幼児教育のさらなる充実・発展につながるものとなることを期待します。